

## 防火水槽・消火栓について

**議員** 地域内の設備は、一定の設置基準があると思いますが大町は基準に達しているか。増設の考えはないかお伺いします。

**町長** 杉谷地区建物火災により、お一人の方がお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りすると共に、被災された皆様、ご遺族にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

今回の火災では2棟が全焼し、1棟がボヤ被害に遭われ、消火活動には、大町町消防団や白石消防署、大町分署をはじめ、杵藤地区広域市町村圏組合等、出勤いただいたところで、延焼を最小限に食い止めていただいたと感謝をしているところです。

大町町での消防水利の有効範囲については、杵藤地区広域市町村圏組合消防本部訓令の規定により半径140メートルとなっております。

これらの規定に沿って、

本町は自然水利のほかに、防火水槽62基、消火栓93基の計155基の人工水利を設置し、消防水利を確保しています。

消火栓等の消防水利については、先ほど申しましたとおり、ため池などの自然水利と人工水利で、住宅地の消防水利はカバーできているため、増設は考えていません。

## 避難者のための備蓄品は利用可能と思うが

**議員** 災害時の備蓄品の利用、また、ペットと一緒に避難は可能か？

**総務課長** 避難所等における物資の備蓄については、佐賀県の提言では、人口の5%の1日分3食ですが、大町町ではその2倍以上となる約1800食分の食料等の備蓄を確保しているところです。

気象庁から警戒レベルが発表されると、高齢者等避

難、避難指示、緊急安全確保等の避難を促す発令を適宜判断し、防災行政無線等を使って町民にお知らせすると共に、指定避難所を開

設しますが、これらを発令する以前の段階で、自宅にしていることに不安や危険を感じて自主的に避難したい町民を対象に、まずは自主避難所として町の施設を開放しています。

この自主避難所に避難された人に備蓄品の提供をとのご提案ですが、原則として自主避難所では食料等の提供を行わず、避難者による準備をお願いしていますし、希望があれば職員が買い出しに行くなど、配慮しているところです。

ペットと一緒に避難は可能か？とのことですが、町が開設する避難所について訓練された盲導犬、介助犬は別として、基本的には、鳴き声やアレルギー等、他の避難者への配慮及び多様性等に考慮し、室内へのペット同伴はお断りしてい

ます。

ただ、これまでは、屋外等にリードで繋いだり、ゲージに入れておくことで対応させていただいていますが、ご存じの通り、大町町では令和4年4月から稼働している日本レスキュー協会の施設「モアワン」をペット同伴の避難所として運用しています。

これにより、ペットを飼っている人も、そうでない人も躊躇なく、より安心して避難できるようになったと考えています。

## DX戦略について

山下 淳也

**議員** DX推進基本計画を策定する考えは？

**企画政策課長** 国では、令和2年12月にデジタル社会の実現に向けた改革の基本方針とデジタル・ガバメント実行計画が策定され、その後、自治体が重点的に取り組むべき重点事項や国による支援策を示した自治体デ

ジタル・トランスフォーメーション、いわゆるDX推進計画が策定されました。

この推進計画の策定に併せ、自治体DX推進手順書や地域社会のデジタル化に係る参考事例集が示され、また2021年にはデジタル田園都市国家構想総合戦略が打ち出され、これを受け、住民の身近な行政を担う地方自治体の役割が極めて重要になってきており、全国の自治体でDX推進計画やDX基本方針などが策定されている状況となっております。

町においては、令和3年に策定した第5次総合計画に、最新のICT技術を活用した利便性の高いサービスの提供や、行政手続きのオンライン化、事務の効率化を目標に掲げて推進しており、国家戦略としてのデジタル化として進められているマイナンバーの普及の促進・利用の推進やマイナンバーカードを使った各種証明書のコンビニ交付、戸